



平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果報告と今後の取組について

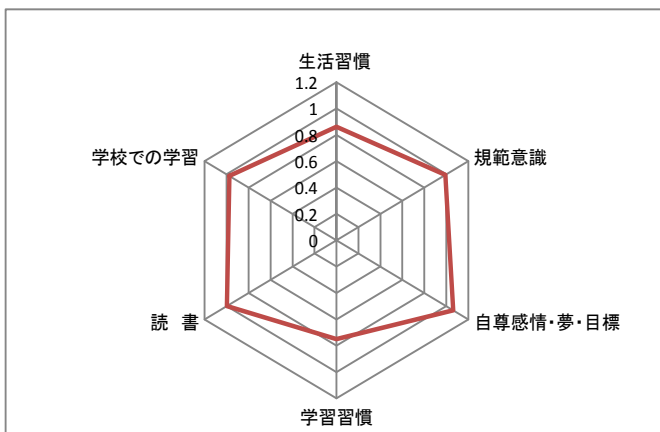
文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語，算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語A	漢字の読み書きなどの基本的な事項については定着してきている。ローマ字を書いたり、読んだりすることに課題がある。今後、ローマ字を読んだり書いたりする練習を繰り返す必要がある。	下回っている
国語B	話すこと・聞くことに関する能力に課題が見られる。グラフや表を基に自分の考えを書いたり、自分が話をする内容を整理したり、話の展開に沿って質問するような力が必要である。	下回っている
算数A	計算力については取組の成果が表れ、着実に力がついてきている。図形領域についての定着がまだ不十分である。今後、図形に関する用語とその定義の理解を徹底していく必要がある。	上回っている
算数B	例やグラフを基にして自分の考えを記述することに課題がある。資料の中で、問題を解決するのに必要なことを判断したり、それらを用いて表現したりする力が必要である。	下回っている

※Aとは主に基礎的・基本的な知識を問う問題、Bとは、主に思考力・表現力などの活用力を問う問題です。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・ 毎日、同じくらいの時刻に寝ていると回答した児童の比率が、全国と比べるとかなり低い。
- ・ ほぼ全員の児童が、学校の宿題をきちんとしている。その一方で、自分で計画を立てて勉強をしている児童の率は、全国の半分ほどである。
- ・ 自尊感情は高く、将来の夢や目標をもっている児童は全国よりも多い。それぞれの夢を実現させるために具体的な目標選定を行い行動に結びつけさせることが必要である。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

- 学力向上のための特設時間の実施
 - ・ 『長尾チャレンジタイム』（朝の15分間）で漢字・読書・計算・音読を全校一斉に実施する。
 - ・ 低・高学年に分かれての『ぐんぐんタイム』（給食準備の15分間）で授業時間内にできなかった問題等の補充学習を行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭における自主学習の定着
 - ・ 学年×10分間といった家庭学習の時間について教職員と保護者が共通理解し、足並みをそろえてお子様への指導をお願いします。
 - ・ 学習意欲を高めるため、本校独自の家庭学習チャレンジシートを活用する。